

九大の有機EL最先端研究 東芝など9社参加

【北九州】九州大学は有機EL(エレクトロ・ルミネッセンス)の最先端研究に新日鉄化学、東京エレクトロン、東芝など9社が参加すると発表

した。九大に開設した最先端有機光エレクトロニクス研究センター(OPEERA、センター長・安達千波矢九大教授)に企業研究者が集まる。サテライト研究拠点として、広島大、京大、千葉大なども参加する。研究テーマはリン光のエネルギーを蛍光のエネ

ルギーに変換し、100%の高発光効率が可能。新しい蛍光発光材料の開発や、液体半導体を入れ替えて常に新しい発光材料が供給でき劣化しない有機ELパネル、パネルを大型化しやすくなる有機材料の開発など。

東芝などのほか、日産化学工業、日本化薬、パナソニック電工、保土谷化学工業、三菱レイヨン、リコーが参加。研究は未来材料、ウェットプロセス、ドライプロセスなど6分野に分ける。北陸先端科学技術大学院大(石川県能美市)と岡山理科大もサテライト拠点となる。中国や韓国からも研究者を受け入れる。同プロジェクトは国の総合科学技術会議で採択され、4年間で計約32億円の助成を受ける。